

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

—自分の成長に気付く学習活動を通して—

指導主事 森 浩之

研究協力校 熊本県立黒石原支援学校

教諭 福山 邦彦

指導主事 中満 隆志

教諭 西畠 瑠美

今年度の研究協力校である県立黒石原支援学校は、熊本県内唯一の病弱者を対象とする特別支援学校である。小学部・中学部・高等部があり、教育課程は児童生徒の実態に応じて、各学部において、大きく4つの課程を設け、「自立活動」に関する校内研究に熱心に取り組んでいる。

1 研究の視点

「振り返り」と「対話活動」を工夫することによって、子供たちが自他の目標を共有しながら、分かったことやできたことを実感できるようにする。このことにより、子供たちが自分の成長及び他者のよさに気付くとともに、新たな課題にも向き合っていく力を付けて、豊かな学びにつながると捉える。

(1) 視点1「振り返りの工夫」

- 学びを振り返るためのシートを工夫することによって、自他の成長を確認できるようにする。
- 学びを振り返るためのシートを一人一人の振り返り発表や次時の学習でも活かすことによって、自他のできていたところを確認できるようにする。
- 授業者同士の連携や担任と教科担任との連携による一人一人の生徒の実態に応じた目標を設定するようにする。

(2) 視点2「対話活動の工夫」

- 自分の考えをまとめるためのシートを活用し、意見を出しやすいようにする。
- 自他の目標を共有し、何を振り返るのかを意識した対話活動を行うことにより、他者の意見を尊重しながら、自分の考えを言うことができるようにする。
- 自分の目標に沿った形で評価を受けることにより、より達成感を得て、自身の成長に気づきやすいようにする。

これらの視点を持って、中学部では自立活動、高等部では美術科における授業実践を通して検証する。

2 研究の実際

(1) 中学部

検証 中学部グループ別自立活動Bグループ

題材名 グループで話し合おう

① 本題材の授業設計

ア 生徒の実態から

県立黒石原支援学校中学部では、Ⅰ課程及びⅡ課程在籍生徒を個々の課題に応じて4つのグループに分けて指導するグループ別自立活動を行っている。

対象のグループは、1年生から3年生までの5人の生徒で構成しており、共通して、自分の気持ちや考えを伝えるといった人との関わり方に苦手意識が強くはたらくという傾向がある。

また、事前アンケートから、生徒一人一人の成長を支える教師の丁寧な生徒への関わりと生徒同士の良好な関係により、学校生活や学習を通して、周りの人（生徒）が成長したと感じている生徒は多いことが分かった。しかしながら、自分の成長を感じることや周りから認められていることを実感できていないということも分かった。

このため、毎時間行っている振り返りをより工夫することとともに、友だちからの評価による自分ができていたことの確認を通して、自分の成長に気づき、自尊感情を高めることが必要であると考えた。そのためには、子供同士の対話活動を通し、周りから認められているという実感を持たせることが有効であると考えた。互いのよさを授業における互いの目標に沿って伝え合うことができれば、より自分の成長の実感へとつながると考えた。

イ 題材観

本題材は、特別支援学校学習指導要領「自立活動」の内容（六区分26項目）のうち、主に「2 心理的な安定」、「3 人間関係の形成」、「6 コミュニケーション」の3つの区分に属する項目を相互に関連付けて指導を行うものである。

周りから認められているという実感を持ち、自分の成長を感じとるためには、題材の目標を受けて生徒が自分で目標を立てることや何を振り返るのかを事前に理解しておくこと等により、自分の目標をより意識した活動につながるようにすることが必要だと考えた。

このため、題材を通して、グループや個人の目標を明確に提示・確認するとともに、話し合い活動のルールや振り返りシート等の工夫を行うこと等により、目標を意識した行動ができたかどうかを振り返ることに着目し、自分のできたことを確認し、成長として受け止めることができるようにした。

ウ 指導観

○固定された少人数のグループでの話し合いを継続することによって、安心感を与え、自信を持って発言したり、他者の意見を聞く力を付けるようにしたりする。

○グループ及び自他の目標とともに何を振り返るのかを話し合いの前に明確に示し、目標達成に向けた意識を高めるようにする。

○話し合いのルールを提示し、グループの考えとして一つにまとめていく活動によって、他者の意見を尊重しつつ、自分の考えを伝える力を付けるようにする。

エ 研究の視点

(ア) 研究の視点 1 「振り返りの工夫」

- ① 振り返りシートを基に何を振り返るのかを事前に示し活動することで、自他のできたことに着目した振り返りができるようにする。

(イ) 研究の視点 2 「対話活動の工夫」

- ② 話し合いのルールを示し、自他の目標を共有しながら少人数グループでの話し合い活動を継続して行う。
③ 前時の振り返りシートの活用等を通して、自分と他者の考えを比較しながら発言しやすようにする。

オ 題材の目標

- ・グループのメンバーに自分の意見を言ったり、話を聞いたりするなどのコミュニケーション能力を付けることができる。
- ・自分の意見と他者の意見の共通点や相違点を比較しながら話し合うことができる。
- ・グループのメンバーと話し合った内容を別のグループの人へ伝えることができる。

カ 題材計画

次	時	小題材	学習内容
一	1	2学期の内容を知り、目標を決めよう	・2学期の学習内容を知る ・自分の目標を決める
二	1	グループで話し合っ て決めよう①	・グループで1つの答えを出す 「食べ物」の里
三	3	グループで話し合っ て決めよう②	・ペアやグループで話し合い、 それぞれの意見をまとめる 「打順を決めよう」 「非常用持ち出し袋に何を入 れる？」
四	1	グループで話し合っ た内容を伝えよう	・話し合った内容を的確に他 のグループの人へ伝える

② 指導の実際（5/6時間）

過程	学習活動及び指導上の留意点
導入	<健康観察><グループの約束及び目標の確認> 1 本時の学習の流れを確認する。(本時の見通し①) 2 前時の授業を振り返る。 ○自分ができたことを確認する。 【研究の視点1】① ○前時の振り返りシートを活用し、教師からのコメントを確認するとともに教師と目標を共有する。 学習目標 非常用持ち出し袋に何をを入れるかをグループで話し合っ て決めよう。 ○個人の目標を全体で確認する。
展開	3 本時の活動内容を具体的に知る。(本時の見通し②) 【研究の視点2】② ○話し合い活動のルール ○活動内容及び時間配分 ○発表の仕方等 <話し合いの場の設定> 4 グループ全体で話し合う。 【研究の視点2】② 前時(※1)と同じ内容をグループ全体で話し合うことで、考えを表出しやすようにする。 (※1)前時の学習：2人及び3人の小グループで行った本時と同様の活動：20の道具一覧から、5つの道具を選ぶ。 (1)考えを出し合う。 【研究の視点2】③ ○前時で作成したワークシート① (自分が選んだ道具とその理由を記述したもの)を基に、自分の考えを整理し発言しやすようにする。 ○前時で作成したワークシート②(自分の選択、他者の選択、前時の小グループによる選択、他のグループの選択等を比較するもの)を活用し、他者の意見と比較できるようにする。 (2)グループで20の道具から5つの道具を決める。 ○単に多数決で決めるのではなく、理由を伝え合って決めていくようにする。



整理	5 学習したことをまとめ、振り返る。 【研究の視点2】③ ○振り返りをする上で、振り返りシートを活用し、次の6つの項目で確認する。 ①内容理解、②意見を言う、他者の考えを聞く、③他者の考えと同じところ・違うところ、④目標を意識した活動(2回目の授業以降)、⑤他者のよかったところ(グジョブ紹介 記述)、⑥感じたこと(記述) ○生徒一人一人が振り返りを発表することで、互いの気付きを共有し、次時の活動への意欲を高める。
	評価:(振り返りシート・発表・観察) ・自分の考えに理由をそえて話すことができた。 ・目標に沿った言動が見られた。 ・他者のよさに気付くことができた。

③ 検証結果と考察

図1から図3は、振り返りシートにおける6つの項目から見取った結果である。

ア 研究の視点1「振り返りの工夫」について

図1は、振り返りの記述で見られる他者(個人)に対する肯定的評価の件数の推移を示している。

1回目の授業時に、自分の目標とともに目標達成に向けて意識することを決め、毎回自他の目標をおさえてきた。このことによって、目標に沿った形で他者からの評価の割合が増えたことがうかがわれる。この評価は、一人一人の振り返り発表によって伝え合うようにした。表1に、目標に沿った評価の例を示す。

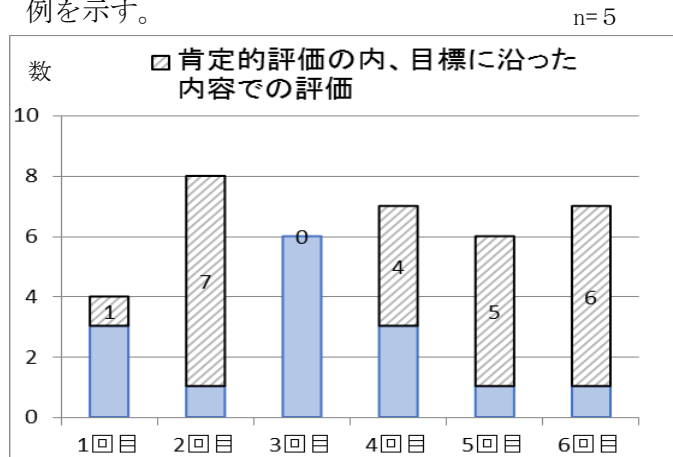


図1 振り返りシートの記述に見られる肯定的評価の推移

表1 個人目標と評価の例

個人目標の例	目標達成に向けて意識すること	目標に沿った評価の例
人の話をさえぎらないように意見を言う。	人の話をまず聞く。	今日自分は人の話をさえぎらずにできたと思う。(自己評価の例)
話合いのリードをすることができる。	他の人に話題をふる。	△△君が話を進めてくれて話をまとめることができた。(他者からの評価の例)

イ 研究の視点2「対話活動の工夫」について

図2と図3からは、意見を言うことと他者の考えを聞くことが連動している傾向が見られる。固定された少人数グループでの話し合いを継続し、毎時間、話し合いのルールの確認をする丁寧な取組は、ルールを個人の目標にリンクさせている生徒も複数いたこともあり、自分だけでなく他人の考えも大切にしていこうと有効であったと考える。

また、題材が難しいと感じた場合、自己評価が低くなる傾向が見えた。これは、振り返りの全項目に共通して見られるものであり、分かりやすい題材設定が土台となることが浮き彫りになっている。

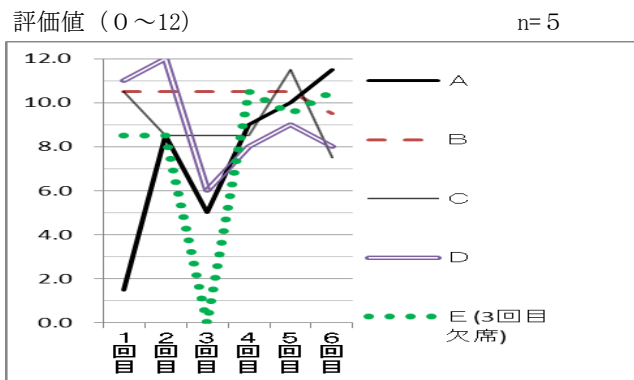


図2 意見を言う(振り返りシートの結果)

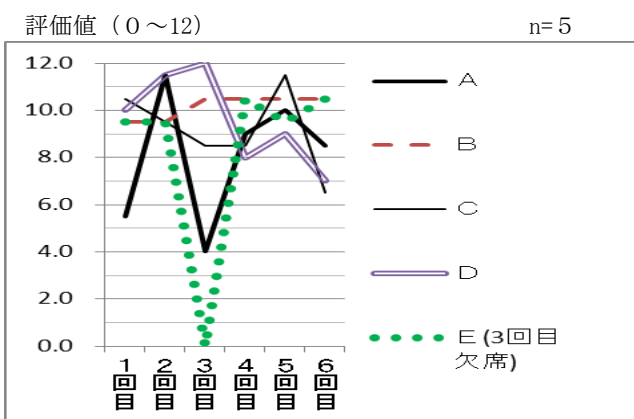


図3 他者の考えを聞く(振り返りシートの結果)

(2) 高等部

高等部Ⅰ課程3年 芸術科 美術Ⅱ

問題解決のデザイン～粘土を使った実用的なものの作り～

① 本題材の授業設計

ア 実態から

Ⅰ課程3年には生徒4人が在籍している。美術に関しては、授業での制作を重ねていくことで作品の完成度を上げている生徒、他の生徒より良い作品を

作りたいと意欲を持っている生徒がいる。一方、彼らは制作経験の不足からあまり自信が持てなかったり、絵を描くことがあまり得意でなかったり、途中での変更や見通しが持てないことへ不安を持ったりしているため、実態に応じた手だてを行いつつ、自分の成長に気づき自尊感情を高めることが必要である。

イ 題材観

本題材は日本の伝統的な文化に触れながら、粘土を使って機能的なデザインを考えながら抹茶碗を制作するものである。抹茶碗の歴史を知り、実際に制作し、使用することで機能的な美についての理解が深まると考える。機能的な作品であるためには使いやすい大きさや重さ、色合い等を考えながら成形や施釉していく必要がある。生徒の実態から特別支援学校学習指導要領「自立活動」の内容（六区分26項目）のうち、「2 心理的安定」、「4 環境の把握」の視点も踏まえながら活動の見通しを持つための「学習プランシート」等の学習シートや制作のイメージをしやすいように自身の活動の様子やモデルを動画で示す等の細やかな手だてが必要である。またこれらのツールを活用し、自身の課題やできたことを視覚化し明確にすることで、授業の振り返りや対話活動がより分かりやすくなり、生徒が自分の成長に気づくことができ、豊かな学びとなるのではないかと考える。

ウ 指導観

- 成形、施釉ともに、紙粘土で一度練習をして完成のイメージを作り、見通しを持てるようにする。
- 練習を元に学習プランシートに課題や次に工夫したいこと、それがうまくいったこと等を記入し整理する。それを活用し授業の振り返りや対話活動を行い次時の工夫改善へつなげる。
- 抹茶碗の歴史や成形、施釉の模範、生徒自身の練習の動画を作成し、視覚的にイメージしやすくする。

エ 研究の視点

(ア) 研究の視点1「振り返りの工夫」

- ①工夫したいことや感想をシートにまとめ振り返ることで、目標やできるようになったことを意識できるようにする。

(イ) 研究の視点2「対話活動の工夫」

- ②個別の工夫点やできたことを引き出す発問をすることで、自分や他生徒のよさに気付くようにする。

オ 題材の目標

- ・機能的なデザインについて考えながら抹茶碗を作ることができる。
- ・自身が使用する「抹茶碗」を制作、使用することで、日本の伝統文化を身近に感じることができる。

カ 題材計画

次	時	学習活動	
一	2	抹茶碗の歴史 動画を視聴し、抹茶碗について知る	抹茶碗について理解し、イメージを持つ
二	3	紙粘土で試作 紙粘土を使って抹茶碗を制作する	粘土の捏ね方、底面・側面の厚さの調整
三	3	陶芸粘土で作成 陶芸粘土を使って抹茶碗を制作する	機能的なデザインに成形する 学習プランシート①
四	2	施釉練習（紙粘土） 釉薬の掛け方を学び、釉薬を掛ける	釉薬の配色・方法を考え、施釉する 学習プランシート②
五	2	施釉本番（素焼き） 練習を踏まえ、釉薬を掛ける	釉薬イメージシート
六	1	完成・振り返り 完成作品の鑑賞会を行う	完成作品を鑑賞し、自分や友達の作品の良さを知る

② 指導の実際（11/13時間）

過程	学習活動
導入	1 本時の流れを確認する。 ・学習の見通しが持てるよう、掲示された本時の流れを確認する。 2 本時の目標を確認する。 【研究の視点1①、研究の視点2②】 ・練習の様子や動画を見る。学習プランシートの「工夫したい点」を発表し、確認する。釉薬掛けのポイントを模範動画や表示で確認する。 学習目標 練習をもとに、イメージどおりに釉薬を掛けることができる
展開	3 釉薬がけをする。 ・黒板に掲示した自分の工夫したい点や施釉のポイントを確認しながら釉薬掛けをする。 ・順番に施釉し、他の生徒の良さや工夫点が分かるようにする。
整理	4 学習のまとめを行い、振り返り、発表する。 【研究の視点1①、研究の視点2②】 ・振り返りができるよう、学習プランシートに記入したり、施釉後の作品と釉薬掛けイメージシートを比較したりする。

③ 検証結果と考察

ア 研究の視点1「振り返りの工夫」について

表2は学習プランシートの内容の一部である。振り返りの時間において、施釉練習後どのようにすればよりきれいに施釉できるか、施釉後に感想と次に

生かすことを記入したものである。できたという実感を持つこと、またその経験を他の場面にも生かそうとすることが自身の成長への気付きと考える。

表2 学習プランシートの記述（一部）

生徒	施釉に向けた工夫（練習後）	施釉後の感想	次に生かすこと
①	イメージがしにくかったから表示を見ながらする。	練習の時よりもイメージがしやすかった。	イメージがしにくい時があった場合は表示を見ながらするなど工夫することが大切。
②	緊張して時間がかかったので、持ち方を工夫する。	少し重みがあったが、両手をつかって施釉することができた。	スムーズにするためには自分で考えて行動し、動きを早めにするべきだと思った。
③	釉薬イメージシートの図を見て私も斜めに色をのせたいと思ったので、本番前にイメージをしておく。	斜めにそば釉をかけることができた。自分的にはきれいに色をのせることができた。	何事にもイメージを持って取り組み、ていねいにこなしていきたい。

表2①の記述から、釉薬の色と本焼き後の釉薬の色の表示を確認することでイメージを持つことができ、今後表示等の視覚情報を活用することの必要性に気付くことができたことが分かる。②の記述から、持ち方を両手にしたことで抹茶碗の重さに対応することができ、スムーズに施釉できたことが分かる。工夫することによりスムーズにでき、自信につながり、やり方を工夫してスムーズに行動することが大切であると感じている。③の記述から、成形後の抹茶碗の形を元に釉薬の色や方法をシートに記入したことで、イメージを持ってきれいに施釉することができたことが分かる。今後もイメージを持つことで丁寧に取り組めるということにも気付いた。

以上のことから生徒は、練習を元に工夫点を考えることで、イメージ通りに施釉することができ、そこで分ったことをさらに他の場面でも生かしていこうとしていることがうかがわれる。生徒が自身の成長に気付き、自尊感情が高まったと言える。

イ 研究の視点2「対話活動の工夫」について

（授業後の生徒の感想より）

他の友だちの掛け方がみんな違って、上手にできていた。今度は友達がやっていた2色掛けでやってみたい。

授業後の生徒の感想からは、他の生徒の発表を聞いて、自分と他の生徒の施釉方法や配色の違いや良さに気付き、今度は他の生徒のやった2色掛けをやってみたいと感じている。

他の生徒の施釉の様子や作品を見たり、発表を聞

いたりしたことで、自分の成長だけでなく、他の生徒の良さや成長にも気付くことができた。

3 研究のまとめ

(1) 成果

振り返るための学習シートを工夫し、何を振り返るのかを意識させて対話活動を行うことは、考えをまとめたり、自他の成長を確認したりするうえで有効であった。

中学部では、図1の推移に見られるように、目標に沿ったかたちで他者からの肯定的な評価を得ることができるようになり、毎時間における一人一人の振り返り発表によって当該生徒に伝えることができた。また、自他の目標を共有し、自己評価の項目とともにグループメンバーのよかったところを記述する欄を設けることにより、他者のみならず自己を肯定的に見る内容も出てきた。

高等部では、学習プランシートを振り返るうえでも活用することで、自他の工夫やできたことを確認しやすくなり、分かったことをさらに他の場面でも生かしていこうとする姿を見ることができた。

以上のことから、分かったことやできたことを通し、自分の成長に気付き、自尊感情を高めることにつながったと考える。

(2) 課題

自他の成長に気付くことができる振り返りの工夫の成果を基に、障がいの状態、発達段階に応じた対話活動を充実させていく在り方を探っていきたい。

そのためにも、授業者同士及び担任と教科担任との連携をより深めて指導すべき課題を明確にし、一人一人の実態に応じた目標の設定ができるようにすることが一層求められてくる。一人一人の将来の自立の姿を描き、達成感を得られる課題への取組を重ねていくことを通し、新たな課題にも向き合っていくことができる力を付けていくことができると考える。